島根県奥出雲町・三井野開拓

島根県仁多郡奥出雲町の三井野開拓は、広島県との県境に接し、東に鳥取県の県境もある。

全域が比婆道後帝釈国定公園に指定されており、スサノオノミコトがヤマタノオロチを退治したという伝説の地「船通山」の南西に位置する。

当時の住所は、広島県比婆郡八鉾村であったが、53 年に島根県に県境変更された。

戦争末期の 44 年 10 月、食料難に対応するため、農業報国会島根県支部直営農場がこの地に置かれ、バレイショ種子の採取保護地として島根県農兵隊２００人（国民学校初等科第４学年以上の児童、青年学校及び男女中等学校生徒が動員された）で開拓したのが始まり。

この土地は、標高７３０㍍の高冷地で、火山灰の土壌がバレイショ栽培に適しているとされた。

45 年に終戦し、国内は混乱したが、11 月には緊急開拓事業実施要領が決定され、事業自体は従前どおり継続された。農業報国会が農事振興会に改組され、開拓の基地農場となった。

47 年から近隣（島根・広島・香川など）や満州からの引き揚げ者などが入植してきた。基地農場で訓練した人たちも多く、開拓に役立つこととなった。48 年４月に開拓基地農場は三瓶農民修練場へ移転、三井野は純開拓地として入植者を受け入れた。同年 10 月に戸数 30 戸で三井野（公式には八川）開拓農協が発足した。

49 年にスキー場を開設した。これはせっかく国鉄木次線が通っているので、三井野原駅を設置するためでもあった。

火山灰特有の酸性土壌のため雑穀は不良で、キャベツ、ダイコン、野菜用バレイショなどの生産が増え、主幹作物として定着していった。

67 年、国から夏秋キャベツ産地として指定を受け、生産出荷近代化事業が計画されることになり、八川農協による共販体制に統一された。

78 年 10 月、開拓 30 周年記念式典が開催され、開拓の碑が建てられた（**写真**）。

現在は、数戸の農家が高原野菜やトルコギキョウなどの生花を生産している。

**島根県奥出雲町・三井野開拓**

①調　査　日　2020 年 11 月 11 日
②所　　在　仁多郡奥出雲町八川
③地区の沿革　吾妻山の北部に
④設置年月日　昭和 53 年 10 月
⑤設　置　者　入植者
⑥碑　　名　開拓記念碑
⑦碑文（表面）　開拓之碑　　島根県知事　恒松 制治
⑧碑文（裏面）　三井野原開拓三十年記念　昭和五十三年十月建之
　　開拓者 28 名氏名
⑨現在の状況　稚児ヶ池神社地内で管理されている。

三井野原開拓三十周年記念
昭和五十三年十月建之
開拓者
西山登 吉田容三 藤田正男
西山俊雄 吉岡章 近藤久夫
堀江成德 田尾勇吉 笹原三郎
鳥居祺一 中村邦義 北野秀雄
大西勝 黒川賢 白川久ノ
渡辺寛一 山根誉 白川健一
和久利保夫 山根久 平方九州男
川西義輝 増田勇 日森久樹
勝田美鄭 真鍋茂
鎌田福 相高雄
石工 青木十二郎
華園植田垂吉